

みんなの命

小 三

ぼくのお母さんのおなかには、今、赤ちゃんがいます。だから、ぼくは、お母さんのお手つだいをがんばっています。お母さんがおなかにけがをしましたら、おなかにある一つの命がなくなってしまうからです。

さいしよに、お母さんのおなかに赤ちゃんが来たとき、ぼくはなぜかないでしまいました。お兄ちゃんになることが楽しみで、うれしい気持ちだったのと、お母さんがぼくのことを見てくれなくなってしまうのではないかと、かと思つて、かなしくなつてしまつた

からです。いつしよに赤ちゃんの話を知りました。ぼくは、ぼくよりずっと小さい弟は、いつまでも一番下の子でいたかっただと思ひます。お父さんとお母さんは、

「赤ちゃんが生まれても、あなたたち二人を思う気持ちは、今までとかわらないよ。」

と言つてくれました。ぼくのおんなな気持ちは、少しなくなりました。

そして、お母さんはごはんが食べられなくなつて、トイレではいたり、ふとんでねていたりすることが多くなりました。ぼくは、お母さんが病氣になつたのかと思つて、すごく心配になりました。だけど、これは赤ちゃんが生まれるためにひつような「つわり」だと

ぼくは知りました。とてもつらそうな
お母さんを見て、このときから、ぼく
はお手つだいを始めました。せんたく
ものをほしたり、たたんだりしました。
はじめておふろそうじにもちようせん
しました。弟もいっしょにお手つだい
をがんばりました。お母さんがごはん
を食べられるようになる、お母さん
のおなかが少しずつ大きくなってきま
した。

ある日、お母さんに、
「おなかをさわってごらん。」
と言われて、そつとさわってみると、
ポコツと自分の手にしんどうをかんじ
ました。お母さんのおなかにいる赤
ちゃんをかんじることができて、ぼく
はすごくおどろきました。今では、ポ

コツではなく、ボコツとけつたりパン
チをしたりしているようで、お母さん
はたいへんそうです。だから、ぼくは
おなかの赤ちゃんに、

「お母さんをこまらせちゃダメ。」
と、話しかけます。さいしょは、赤ちゃ
んが生まれてくるのをいやがっていた
弟も、今では、楽しそうに赤ちゃんに
話しかけています。

ぼくは、二年生のじゅぎょうで、自
分が生まれた時のことや赤ちゃんが生
まれる時のことを勉強しました。先生
は、

「赤ちゃんが生まれるときは、はなか
らすいかがでるくらい、いたいんだ
よ。」
と、教えてくれました。今までもお母

さんはたいへんな思いをしてきたのに、
さいごにまたいたい思いをするのだと
思うと、ぼくはとても心配です。ぼく
や弟をうむ時も、お母さんは長い間た
いへんな思いをして生んでくれたのだ
とわかりました。だから、ぼくは、お
父さんお母さんがくれた命を大切にし
ていかなければいけないと思いました。
これから生まれて来る赤ちゃんのこと
も大事にしていきたいです。そして、
お母さんや弟、お父さんや友だちみん
なにも元気でいてほしいと思います。